

校長室から

校長室だより 第2号

令和元(2019)年10月15日発行

文責 宮城県古川工業高等学校

校長 佐藤 誠



週末の台風19号で東日本各地に甚大な被害があり、県内でも多くの死傷者と家屋の浸水被害がありました。お亡くなりになった方に哀悼の誠を捧げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

三連休最後の10/14(月)に、校舎・校地の台風被害の確認もあり、学校に向かいました。自宅は仙台なので、国道4号線を北上したのですが、走っている車窓からでも道路や歩道、道沿いの商業施設や家屋に浸水の痕跡かと思われる様子が何カ所も見取れました。特に大和町を通過する中で、明らかな浸水の被害を見ました。さらに北上すると、4号線が大衡から三本木間で通行止めになっていて、中新田経由で学校に向かうことになりました。帰路では、学校から仙台まで4号線は通常通りに走れましたが、途中、三本木の道の駅からひまわりの丘あたりまでの路面には泥の痕跡があり、道路沿いのコンビニは浸水被害の片付けを行っている様子でした。これを見てもテレビ等の報道では扱われていない場所も、至る所で浸水の被害があったことがわかりました。現在、職員・生徒の被害状況の確認を行っていますが、被災した方がいた場合にはできるだけの支援対応をとっていきたいと考えています。

○ ラグビー・ワールドカップ日本代表の活躍を見て：「準備して臨んだ成果」

現在日本で開催されているラグビー・ワールドカップで、日本代表が予選リーグであるプールAで4勝をあげて1位通過し、決勝トーナメント進出・ベスト8入りを果たした。4戦とも手に汗を握る緊迫した試合だったが、中でも、世界ランク2位のアイルランド、同じく強豪のスコットランドに勝利したことは、日本国内を大いに沸かせただけでなく海外にも驚きをもって迎えられている。試合前後の選手たちの報道へのコメントに、「今まで準備をしてきた」という言葉が随所に見られた。4年前のワールドカップで、南アフリカに勝利するという快挙を成し遂げ、予選リーグで3勝しながら決勝トーナメント進出・ベスト8入りを果たせなかった反省を踏まえ、今回のワールドカップではまずベスト8入りを目標と定め、予選リーグで必ず対戦するであろう世界の上位ランクの強豪国に“勝利するための準備”をしてきた、という自信と自負の表れと自分では考えている。

選手たちのこの「準備してきた」という言葉と、自信あふれる態度に、よく言い習わされていることわざが頭に浮かんだ。それは『人事を尽くして天命を待つ』というものである。自分の専門が世界史であることもあるので、このことわざの由来を少し紐解いてみたい。

出典としては、中国の南宋初期の儒学者である胡寅(こいん、1098-1156)の著作『読史管見』(全30巻)にある「人事を尽くして天命に聴(まか)す」という言葉が由来とされている。

これは、4世紀末の淝水の戦いで勝利した東晋の武将謝安の言葉として書かれているもので、意味は「人としてできる限りのことを尽くしたら、あとは静かに天の意思に任せる」という心境を表している。「人事を尽くして」の「人事」とは、人間の力でできる事柄という意味で、「人事を尽くす」とは、自分の力でやれることを全てやるという意味である。現代の日本では、「人事を尽くす」とは多くの場合「ベストを尽くす」という意味で使われている。また、「天命」には二つの意味があり、「この世に生まれてきた果たすべき役割」である「天から与えられた使命」と、「人の意思をこえて身の上に起きるめぐりあわせ」としての「天から与えられた運命」というもので、いずれにしても、「天命」は、自分の意思ではどうすることもできない、見えない大きな力によって定められているもの、という意味になる。

この「人事を尽くして天命を待つ」という言葉をラグビーに戻って考えてみると、人の力を超えた「運命」としての「天命」が、望む結果をもたらしてくれるように、「人事を尽くした」のだと思う。いわば「運命」を引き寄せたといってもいいのかもしれない。「成るべくして成る」、「起こるべくして起こる」ように、「人事を尽くして」準備した結果としてのベスト8だったのだ。

さて、生徒諸君には、集会等の機会があるときに「準備して臨む」ことの大切さを話してきたが、あらためて、「準備して臨む」ことが「望む結果につながる」ことを実感して欲しいと思う。しかしこれは、裏返せば「準備して臨まない」と「望む結果につながらない」ことも、同時に意味しているともとれる。進路希望の達成、資格取得の実現、部活動の勝利や入賞、等々。何もしないで手に入るものは少ない。目標を立て、その結果を望むのなら、その結果に見合うだけの準備をしよう。

やってやれないことはない！ 誰にでも可能性はある。